

新興国通貨の見通しが改善する可能性

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

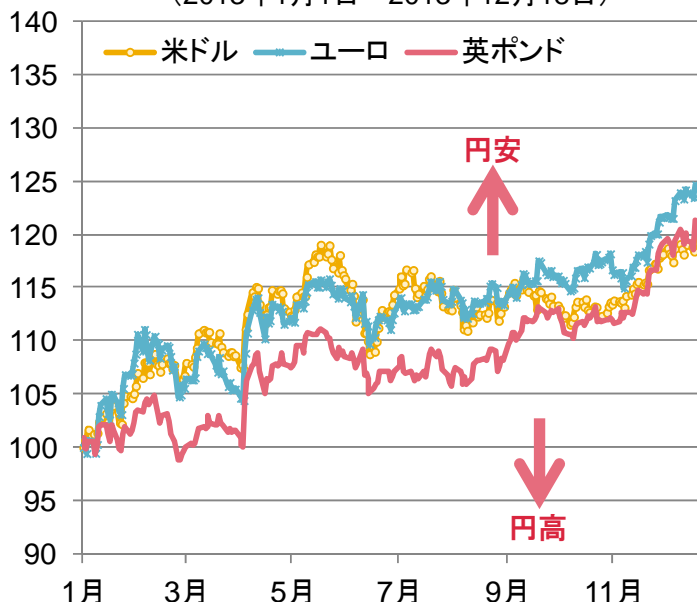
FRB(米連邦準備制度理事会)が18日まで開いたFOMC(米連邦公開市場委員会)で、量的緩和策の縮小を決定したことで、19日の為替市場では円売り・米ドル買いが加速しました。日本との金融政策の方向性の違いが明確となり、今後、日米の金利差が拡大するとの観測が高まったことなどが背景となりました。

そうした中、「量的緩和の縮小」の動きとともに注目されている新興国通貨は、米ドルに対しては弱い動きとなりましたが、円が米ドルに対し大幅安となったことから、円に対しては上昇する展開となりました。5月にバーナンキFRB議長が量的緩和縮小を示唆して以降、8月頃にかけて、新興国からの投資マネーの流出懸念などを背景に、新興国の通貨安が進行したことから、量的緩和の縮小が決定する局面では、再びこれらの通貨が売られるとの懸念がありました。しかし、米国の金融政策の不透明感が後退したことが好感されたほか、18日の米国株式市場で主要株価指数が大幅高となり、投資家がリスク選好姿勢を強めたことなどから、波乱の動きとはなりません。

新興国経済が精彩を欠く中、今後、新興国通貨が積極的に買われる展開になるには時間を要する可能性があります。しかしながら、米国の量的緩和の縮小決定にみられるように、米国景気は明確な改善傾向を示しているほか、日本やユーロの景気も上向きはじめており、先進国の景気回復が新興国にも波及していく可能性が高まっています。加えて、今回、米国で量的緩和の縮小が決定されたものの、その縮小幅は小さいため、これまで懸念されていたような新興国からの急激な資金流出が起きる事態には陥らないとの観測が強まっています。米ドルの円に対する上昇が今後も続く予想される中、新興国通貨の見通しは徐々に明るさを取り戻していくものと考えられます。

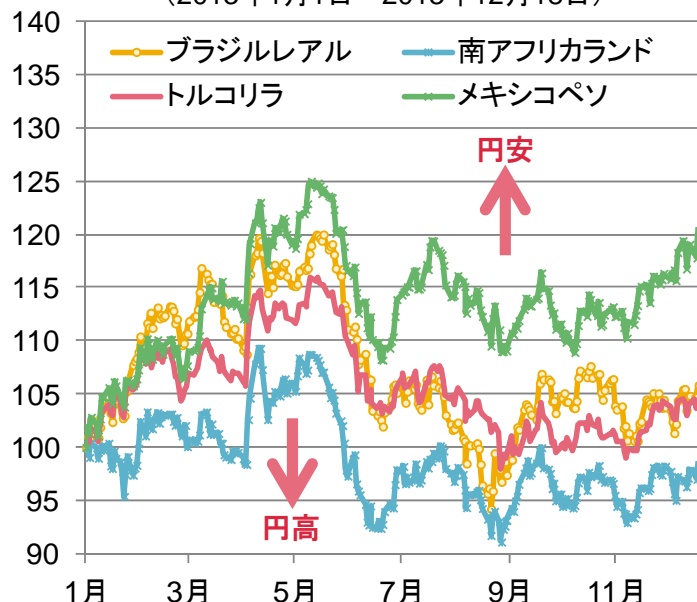
主要先進国の通貨(対円)の推移

(2013年1月1日~2013年12月18日)



主要新興国の通貨(対円)の推移

(2013年1月1日~2013年12月18日)



■上記2図ともに2013年1月1日を100として指数化(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。